



# 美濃加茂高等学校同窓会報

発行 美濃加茂高等学校同窓会 住所 〒505-0027 岐阜県美濃加茂市本郷町7丁目6-60 TEL. 0574-26-7181(代)  
 E-mail : mnkk96@minokamo.ed.jp URL : http://www.minokamo.ed.jp FAX. 0574-25-9048  
 印刷 (株)サラト 住所 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172 TEL. 079-284-1380  
 URL : https://salat.co.jp FAX. 079-284-0904

## 令和5年3月末現在、同窓生総数17,778名 (第48回卒業生まで)



### プライド

学校長 船戸 宙治

同窓会会員の皆さん、こんにちは。  
 ご報告が遅くなりましたが、令和5年4月1日付をもちまして、美濃加茂中学校並びに、美濃加茂高等学校の校長に就任いたしました。3月まで校長として高校18年間、中学校5年間という長きにわたり学園発展のためにご尽力いただいた赤崎耕二前校長先生には遠く及ばず、微力ではございますが、学園発展のため全力を尽くしますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

また、紙面にもあるように、早川港前同窓会会長が後援会会長に就任され、後任には今枝満寿美さん(第10回卒業生)が新同窓会会長に就任されました。初の女性会長であり、女性ならではの視点から同窓会の先頭に立ち、本学園をサポートしていただけたらと思うと、他の何にもまして力強い「応援団」であると感じております。併せて、早川前同窓会会長・赤崎前校長先生に対し、長年のご労苦に敬意と感謝を申し上げます。

ところで、会報発行も7年ぶり6号目になりました。日頃は会員の皆様には、様々な面からサポートしていただき心より感謝申し上げます。ご承知のように、2020年3月、全国の小中高の一斉休校をはじめ、この数年は「新型コロナウイルス感染症」に振り回されっぱなしでした。修学旅行・学園祭や白樺湖研修の中止・延期・規模縮小等、挙げればきりが無い程の行事変更の数々でした。しかし、そのたびに心的・物的等あらゆる面から援助いただいたのが、本校応援団「同窓会」でした。紙面をお借りして、重ねて感謝申し上げます。

さて、本校は令和4年度(昨年度)、創立50周年を迎え、昨年10月には盛大に『50周年記念式典』を挙行することができました。本館5階「渡邊鎮雄博士記念講堂」に飾られている本校校訓「自主性・創造性・社会性」は50周年を記念して、ノーベル化学賞受賞者・吉野彰 名城大学終身教授に揮毫していただいたものです。本校にお立ち寄りの際は、是非ご覧いただきたいと思っております。歴史を遡ると、昭和48年に開校してから令和4年度までの同窓生は、既に17,778名(ほぼ御嵩町の人口)となりました。そして、令和5年度は高校部800名、中学部119名、合わせて919名でスタートをいたしました。

前述したように、「コロナ」には本当に悩まされました。多くのことが初めてであり、指示されたことが数カ月後には通用しなくなるといったことが日常茶飯事でした。しかしながら、生徒や先生達は目の前の大きな壁をどう乗り切ったら良いかを真剣に考え、我慢をしながら一歩ずつではあります、着実に歩を進めていってくれました。それは、私ばかりでなく学園の誇りです。

現在は、コロナもやや収まり、学校全体が活気に満ち、落ち着きのある雰囲気です諸活動に取り組んでいます。そして、進学や部活動をはじめ、様々な分野で大きな成果を出せるようになりました。しかし、それは一朝一夕にできたものではありません。多くの先輩諸氏が築いてくださった土台の上に、積み重ねた努力の結果であることは言うまでもありません。

ある小さな同窓会で「私の卒業した学校って、今すごいやて。」と岐阜弁で話す40歳代の同窓生の顔が今でも忘れられませんし、誇りです。オリンピックで母国を応援する国民同様、理由の如何を問わず、全力で応援していただける「母校」であり続けるために、そして、いつまでも母校への「プライド」を持ち続けていただくためにも、在校生・教職員一丸となって、頑張っていく所存です。併せて、美濃加茂学園が成長・発展し、地域に根差した愛される学校になることを心から望むものです。

引き続き、同窓生の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



### 同窓会=応援団

同窓会会長 今枝 満寿美

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、早川港前会長の後任として同窓会会長を務めさせていただくことになりました今枝満寿美と申します。私自身は第10期生として昭和60年に美濃加茂高校を卒業しました。さらに時を経て、子どもも2人お世話になりました。そんな母校に少しでも恩返しできれば、と思っております。「同窓会=応援団」という早川前会長の思いを受け継ぎ、会員の皆様と母校発展に向けて尽力して参りますのでよろしくお願いいたします。なお、早川前会長には同窓会「顧問」として、引き続きご尽力いただくことも併せてお知らせいたします。

さて、昨年度は本校創立50周年の節目にあたる年でした。そこで、会員の皆様と共に歩んできた50年の歴史と、昨年10月29日(土)に行われました50周年記念式典の様子などを皆様と振り返り、今後の母校の発展に思いを馳せるべく、この度の同窓会報発行に踏み切りました。詳細は次ページ以降にあります。本校は昭和48年(1973年)、法学博士故渡邊鎮雄先生により美濃加茂市の上野台地に設立されました。校名に「美濃加茂」を冠している通り、設立当初から現在に至るまで、地元に着目し、地元で貢献する学校です。当時と比べると社会情勢は大きく変化してきていますが、時代に応じて我が母校は多くの変化をしながらも、校訓である「自主性・創造性・社会性」を身に付けることのできる魅力ある学校であり続けています。そのような母校を誇りに思いますし、校長先生を始めとした教職員の皆様には、感謝の念と共に、頭が下がる思いでいっぱいです。改めてお礼を申し上げます。

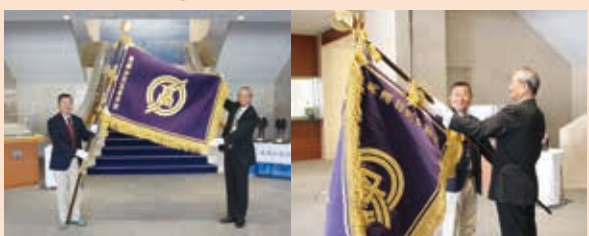
具体的に進学面では、蛭雪コースが牽引車となって全体的なレベルアップを図り、中高一貫のドリカムコースが合流することで、さらなる実績の向上に繋がりました。ここ10年間で国立大学合格者数は50~60人台まで一気に駆け上がり、東京大学、京都大学を始め地元の名古屋大学や岐阜大学への合格者も増えています。令和4年度は旧帝国大学に5名合格、令和3年度は岐阜大学医学部医学科に4名合格など、進学校としての地位も確立してきました。アドバンスコースやチャレンジコースも含め、生徒一人一人に合った進路実現を果たせる本校を誇りに思います。より詳しい進路実績につきましては、当同窓会も作成に協力しました本校のホームページにも掲載されています。よろしければご覧ください。

文武両道がモットーの我が母校は、学業のみならず部活動も相変わらず盛んです。運動部では男子バスケット、女子駅伝、ソフトテニス、ボート、柔道、剣道、ゴルフ、男子ソフトボール、文化系でもブラスバンド部やパントワリング部など、多い年では、個人戦・団体戦合わせて10の部が全国大会に出場するようになりました。各部の活躍もホームページの「部活動速報」で随時リアルタイムで確認することができます。お楽しみいただければと思います。

このように本校は知名度や実績において県下でも指折りの学校となってきました。こうした美濃加茂高等学校の50年の歴史が、今後の礎となり、さらに10年後、20年後…、今よりもさらにすばらしい学校になっていくことを切に願います。同窓会といたしましても、後輩たちのために教育環境整備支援を始め、一層の支援をしていく所存ですので、会員の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。今後の母校のさらなる躍進を祈念して挨拶とさせていただきます。

美濃加茂高等学校 同窓会本部役員		
卒業	役職	氏名
	名誉会長(学校長)	船戸 宙治
第3回(昭53年卒)	顧問	早川 港
第10回(昭60年卒)	会長	今枝満寿美
第13回(昭63年卒)	副会長	鈴木 大介
第14回(平元年卒)	副会長	可児 功吉
第16回(平3年卒)	副会長	山田 拓郎
第16回(平3年卒)	副会長	梶田 達也
第18回(平5年卒)	会計	細田 健太
第18回(平5年卒)	会計(学校職員)	加納 良祐
第22回(平9年卒)	監査	井屋 秀之
第9回(昭59年卒)	監査(学校職員)	白村 信幸
第7回(昭57年卒)	常任幹事	永治 輝彦
第8回(昭58年卒)	常任幹事	武市 豊
第18回(平5年卒)	常任幹事	林 尚孝
第18回(平5年卒)	常任幹事	宮本 絹恵
第18回(平5年卒)	常任幹事	荒川 裕哉
第19回(平6年卒)	常任幹事(学校職員)	井戸 純一
第23回(平10年卒)	常任幹事	渡邊 貴史
第28回(平15年卒)	常任幹事(学校職員)	高橋 陽一
第36回(平23年卒)	常任幹事	柳本 里江
第38回(平25年卒)	常任幹事	西田かおり
第39回(平26年卒)	常任幹事	飯盛 文菜

## Topic ① 校旗を寄贈しました



令和2年10月12日(月)、同窓会から美濃加茂高校及び美濃加茂中学校に校旗を寄贈させていただきました。同窓会を代表して早川会長から赤崎校長先生に直接手渡しました。

50年前の開校当時に作成された美濃加茂高校の校旗は、その都度様々な歴史的出来事に立ち会ってきましたが、時の流れの中で所々が傷んできていました。平成13年に開校した美濃加茂中学校については、校旗そのものが作成されておらず、生徒や教職員、PTAなどから学校のシンボルとしての校旗作成を熱望されていました。

この新しい校旗が全国津々浦々で力強くはたらくことを期待しています。



# 我々が母校、美濃加茂高等学校が50周年を迎えました!!

令和4年10月29日(土)に「学校法人美濃加茂学園美濃加茂高等学校創立50周年記念式典」が行われました。午前中に記念式典、午後には記念講演が行われました。記念式典は大変厳かな雰囲気の中で行われ、改めてこの50年の重みを感じさせられるものとなりました。記念講演は「日本語力とコミュニケーション」という演題で、テレビなどでも活躍される明治大学文学部教授、齋藤孝様にご講演いただきました。人生を豊かにするためのたくさんのヒントを、ユーモアたっぷり話していただきました。



記念式典の様子



ご挨拶される早川前同窓会長



ご講演される齋藤孝教授

昭和48年4月に、学校法人愛知女子商業学園が、ここ上野台に美濃加茂高等学校を設立しました。そして、昭和63年には法人名が愛美学園と変更され、さらに平成16年には、設立当初からの本校をどこまでも地元の学校として運営するという考えをより一層明らかにするため、法人を分離し、法人名を美濃加茂学園として再スタートすることになりました。その間、平成13年には併設型中高一貫教育を目指すべく美濃加茂中学校を設立し、22年が経過しました。



同窓生職員

同窓生職員		
氏名	卒業年	
白村 信幸	昭和59年卒	
加納 良祐	平成5年卒	
井戸 純一	平成6年卒	
塚原 加奈	平成7年卒	
河野 裕介	平成14年卒	
高橋 陽一	平成15年卒	
荒山 雅治	平成16年卒	
後藤 萌	平成23年卒	
櫻井 香穂	平成24年卒	
井戸 唯華	平成24年卒	
林 昇太郎	平成25年卒	
荒井 颯人	平成25年卒	
西田 康人	平成26年卒	
前田 将秀	平成29年卒	
長谷川 葉月	平成29年卒	
石本 孝二	平成29年卒	
川合 伶奈	平成29年卒	
広瀬 昱	平成30年卒	

「建学の精神」を世に打ち出されました。「人間の尊厳に根ざした豊かな教養を身につけ、自然と調和した健康で強い意志と実践力を持ち、自主性・創造性・社会性を培い、民主的で文化的な国家社会の発展と人類の福祉に貢献しうる有為な人材の育成に努める。」創設者の思いは確実に受け継がれ、本校独自の伝統となって、積み上げられてきました。令和4年度までの同窓生は、17,778名となりました。そのお一人お一人が社会でそれぞれに活躍されていることを思うと、非常に感慨深いものがあります。古くから勤められている先生方も少しずつ退職されていますが、転勤がなく基本的に先生方の顔ぶれが変わらないのが私立学校の良さでもあります。同窓生職員の人数も18名となりました。同窓生の皆様も是非これを機に母校に足を運んでみてはいかがでしょうか。

## Topic ② 吉野彰博士来校

令和4年11月28日(月)には、50周年記念事業の一環として、リチウムイオン電池開発の第一人者として令和元年にノーベル化学賞を受賞された吉野彰博士(旭化成株式会社名誉フェロー、名城大学終身教授・特別荣誉教授)をお招きし、全校生徒を対象に特別講演会をしていただきました。

「リチウムイオン電池が拓く未来社会」というテーマで、リチウムイオン電池発明の経緯やノーベル賞の受賞理由、電気自動車などこれからのリチウムイオン電池の活用方法などについてお話をいただきました。

さらに、講演に先立ち、本校の校訓である「自主性・創造性・社会性」の書を書いていただきました。本館5階「渡邊鎮雄博士記念講堂」に飾らせていただいています。





現在、美濃加茂高校並びに美濃加茂中学校の生徒は全員がタブレットを持ち、日々の学習活動に励んでいます。そのため、コロナ禍においても国や県の要請に適切に対応し、オンライン（リモート）授業がスムーズに実施できました。今後もICT機器を用いながら、より質の高い教育活動が進められていくことでしょう。国語科主任の高橋陽一先生（同窓生教員・平成15年卒）に話を聞きました。

—コロナによる休校期間、対面の授業が行われず大変でしたか？

**高橋先生：**本校では生徒一人一人全員がタブレットを持っています。Zoomやロイロノートといったアプリを活用してオンラインの授業がスムーズに行われました。コロナにより、大変苦しい時間を強いられましたが、語弊を恐れず言えば、より本校のICT教育が進化していくよい機会になったと思っています。

—コロナ禍も収束していく中で、ICT機器の活用は具体的にどのようになされていますか？

**高橋先生：**現在、本校の校舎には各教室にプロジェクターが設置されており、ホワイトボードにマーカーペンで授業をします。もうチョークでの字の書き方を忘れてしまったほどです。私は常にプロジェクターを用いながら授業を展開しています。古典の本文を投影したり、各種資料（画像や動画）をその都度効果的に使用できたりと、生徒に分かりやすい授業を提供できていると思

## 次の50年へ 進むICT化



高橋先生の授業の様子

ます。週末課題もロイロノートによる提出としており、教科係がクラス全員分のノートを集めて職員室に持っていくという風景もなくなりました。また、全ての授業においてではないですが、授業用ノートを廃止したクラスもあります。生徒は事前に私から送られた資料にタブレット上で書き込みながら授業を受けています。一日々行われるICT教育の中で、高橋先生が意識されていることは何でしょうか？

**高橋先生：**本当に便利なICT機器ですが、それを使うことが目的とならないようにしたいと思っています。あくまで目的は生徒によりよい学びを提供することですので、そのためにICTという手段があるというイメージを持ちながら今後も教育活動を行っていきたいと考えます。

## 中高一貫校としての進化

### ①個に応じたクラス選択が可能に

ドリカムコースの同窓生には馴染み深い「D」クラス。令和5年度から、その「D」クラスを、普通科として「A」クラスに統一しました。

高校入学時に個々の適性に応じて、従来のドリカムコースの他、蛭雪、アドバンス、チャレンジコースに進学することになりました。これによって、より一人一人に合った教育を受けることができるようになっていきます。

現在高校1年生のアドバンスコースに所属する足立武尊さんに話を聞きました。

—足立さんは美濃加茂中学校を卒業し、現在はアドバンスコース（1A5組）に在籍していますが、なぜこのようなコース選択をされたのですか？

**足立さん：**美濃加茂高校の卒業生で、硬式野球部のOBでもある父（平成13年卒・足立健司さん）の影響で、高校野球に全力で取り組み、甲子園を目指したいと考え、より文武を両立できるアドバンスコースに進むことにしました。

—現在のクラスの雰囲気はどうですか？

**足立さん：**様々な中学校からやって来たクラスメイトたちから多くの刺激をもらい、楽しく学校生活を送っています。野球と学業の両立は大変ですが、共に切磋琢磨できる仲間たちと支え合いながら頑張っています。

—それに加え、足立さんは1年生にして現在生徒会の副会長も務めています。

**足立さん：**はい、これも父の影響が大きいです。父も本校在学中に生徒会副会長を務めていたと聞きました。やはり美濃加茂の特徴は一人一人に合ったきめ細かい教育を提供してくれるところだと思います。放課後の時間も、生徒会活動と野球のバランスを、生徒会顧問の河野先生（同窓生体育科教員・平成14年卒）や野球部部長の西田先生（同窓生英語科教員・平成26年卒）と相談しながら活動できています。これからも何事にも意欲的に挑戦していく高校生活を送りたいと思っています。



体育祭で挨拶する足立さん

打席に立つ足立さん

### ②中高合同の学園祭

クラス編成だけでなく今年度の学園祭にも大きな変化がありました。これまでの学園祭は一部（かなり限られた）を中高合同とし、基本的には中学校と高校が別の動きをしていましたが、今年度からは新たな取り組みとして全てのプログラムを中高合同で行いました。

文化祭では高校生のみならず、中学生のステージ発表も行われ、中学生にとっては大変勇気の必要なものだったと思いますが、高校生たちの拍手や声援に包まれ、大変盛り上がりのある、温かみのある文化祭となりました。

体育祭でも東・西・南・北、全ての軍が中高合同の編成となり、全ての競技において互いに声援を送り合いました。特に各軍がすばらしい一体感を見せてくれた応援合戦は、感動すら覚えるものでした。



中学生のステージ発表



優勝した北軍の応援合戦

不易流行。「不易」とは「いくら世の中が変わっても、変わらないもの、変えてはいけないもの」、「流行」とは「世の中と共に変わっていくもの」を意味します。時が経っても今も変わらず本校の大きな魅力であり続けているのが部活動です。

昭和55年に開校7年目で野球部が甲子園出場を果たしたことをきっかけに、他の部もそれに負けじと切磋琢磨する中で、本校の部活動はすばらしい活躍を見せてきました。部活動に対する世の中の考え方も大きく変わってきています。

ここではこの2年、すばらしい成績を取めた2つの部を紹介します。



# 部活動の活躍



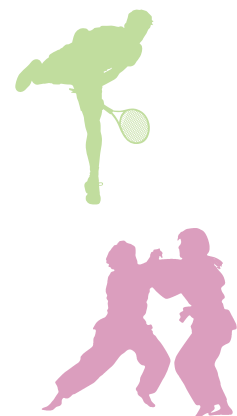
ソフトテニス部男子



まず、ソフトテニス部です。昨年愛媛県で行われた全国高等学校総合体育大会（インターハイ）において男子団体で第5位となりました。17年ぶりの県大会制覇という結果を引っ提げ臨んだ全国大会でも見事な勝ち上がりを見せました。伝統ある美濃加茂高校ソフトテニス部においても歴代最高の成績となりました。現在監督を務めるのは本校の同窓生（平成16年卒）でもある荒山雅治先生（旧姓奥村）です。「卒業生や地域の方々の支えがあった成果でした。これからも生徒たち、かわいい後輩たちと共にソフトテニスを通して大きく成長していきたいと思ひます。」そう語ってくれました。



柔道部女子

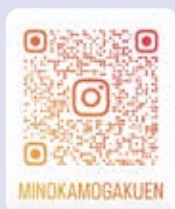


続いて紹介するのは柔道部です。今年度北海道で行われたインターハイにおいて、女子団体でこちらも見事第5位という成績を取めました。柔道部は後藤哲史監督（体育科教諭）が強化を始め、平成27年に初の全国大会出場を果たしました。それ以降、毎年全国での戦いを繰り広げ、ついに第5位まで上り詰めました。しかし後藤監督は「目標は日本一」とさらなる高みを目指す決意です。これからもより一層の活躍を期待します。

## Topic ④ インスタグラム開設



令和5年度より美濃加茂学園公式インスタグラムを開設しました。インスタグラムでは写真や動画を中心に、美濃加茂の日常をお送りします。本アカウントでも、美濃加茂の魅力発信していければと思っています。フォローやいいね！、是非よろしくお願いします。



## Topic ⑤ カジュアルデー

生徒会の発案により、今年度の6月15日（木）、本校に新しい風が吹き込まれました。「カジュアルデー」です。その日は制服でも体操服でも部活動のジャージでも、もちろん私服でもオッケー。生徒一人一人が思い思いの格好で学校に来て生活します。本校の校訓である「自主性・創造性・社会性」を育むことのできるすばらしい活動だと思ひます。スタート時は様子見のように制服や体操服、部活動のジャージなどが多かったですが、徐々に私服を着用する生徒も増えてきたように思われます。文化祭にもカジュアルデーを当て、これまでとはまた一味違った文化祭になりました。現在は月に一度の頻度ではありますが、今後どのような展開を見せていくか楽しみです。

